

季刊 まち・コミ

2016年 春号

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>



まち・コミュニケーションが
設立20周年を迎えます



まち・コミュニケーションは、阪神・淡路大震災の焼け野原から「まちの復興なくして復興なし」と立ち上がった住民が、主体的で持続的なまちづくりをするための支援をしてきました。東日本大震災以降は三陸沿岸の漁村にて、暮らしに合った持続可能なまちづくりを模索しています。今後はこれまでの活動から得た蓄積を、将来の災害に備える「災害に負けないまちづくり」にも生かしてまいります。

おかげさまで4月1日に20周年を迎えます。今後ともご指導よろしく申し上げます。

20周年記念の集い ご案内

20年間の活動に関わってくださった方、そしてこれからの活動に興味を持ってくださっている方にお越しいただく集いです。同窓会のような気楽な会にできればと思っておりますので、ぜひお越しください。

日時 2016年5月28日(土)

13:00 ~ 20年間の活動報告

14:00 ~ 懇親会

16:00 終了

場所 神戸市長田区近辺(参加申し込み者へ事前にお知らせします)

参加希望の方は4月末までに事務局へお申し込みください。(参加人数に合わせて会場を手配しますので、参加が確定していない方もご連絡ください)

メール m-comi@bj.wakwak.com 電話 078-578-1100 FAX 078-576-7961

これまで そして これから

きっかけは阪神・淡路大震災



初代代表 小野宗幸氏

阪神・淡路大震災で8割全焼という甚大な被害を受けた、神戸市長田区御蔵地区。当時の御蔵地区は、火災の影響でほとんど人が居ない状況でした。

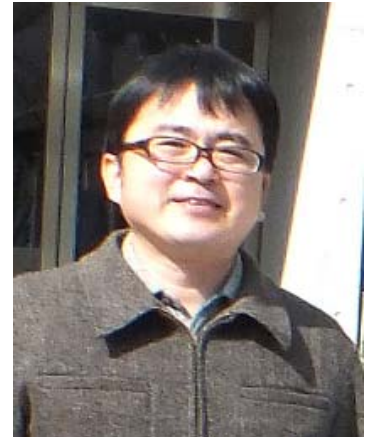
そんな中「この町に人が戻らなければ町の復興はない」と気づいたのが、関東から支援に駆けつけた小野幸一郎（宗幸）氏と浅野幸子氏、そして地元企業の社長で後に地元まちづくり協議会会長となる田中保三氏でした。

御蔵地区の復興を支援しようと、小野氏を代表、田中氏を顧問、浅野氏をスタッフとして、任意団体「阪神・淡路大震災まち支援グループ まち・コミュニケーション」を設立しました。事務所スペースは田中氏の会社に支援を受けて活動をスタート。小野氏は2000年まで、浅野氏は1999年まで長田に住み、御蔵

地区を全力で支え続けました。

阪神・淡路の経験を東日本の被災地へ

2000年春からまち・コミュニケーションの活動に関わり始めたのが、現在の代表の宮定章。大阪大学大学院修士課程で研究生だった宮定は、「なぜ地域に人が戻らないのか」を研究テーマとし、住民たちに聞き取り調査を続けました。



代表 宮定章

阪神・淡路大震災から5年後で、まだ区画整理事業の最中。「これからでも御蔵地区に戻りたい住民の希望を叶えられるのではないか？」という期待もありました。ただ実際は戻れる状況ではありませんでした。

「まちの復興で持続可能な地域をつくるためには、住み続けてきた地域住民の存在無しではできない。だから震災後、人の意識を地域生活から離してはいけない。戻りたい人はすぐに自力で仮設住宅を建てても住み続けるぐらいの覚悟が必要だ。」という教訓が残りました。

まち・コミの20年

	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
災害	①1995年1月17日 阪神・淡路大震災				②1999年 台湾 集集大地震						③2004年 兵庫県豊岡市出		
活動	①まち協・住民支援 →	→	→	→	②神戸と台湾の被災地交流 →	→	→	→	→	→	→	→	→
組織	・1996年4月1日 小野幸一郎（宗幸）代表らが任意団体として設立 ・2002年4月 宮定章代表へ交代												
													まち協解散 古民家移築 ③復旧支援での出会い →

その教訓や経験を東日本大震災での被災地でも生かしたいと、宮定は宮城県石巻市雄勝(おがつ)町にて、2012年から支援活動を開始。養殖漁業がさかんな地域で、大きな被害を受けた浜を中心に、仕事や生活の聞き取り調査をしています。その中で、人々の地域への思い、家族の暮らしへの思い、といった「個人の思いを軸にした復興」が地域コミュニティの持続には必要だと感じ、支援し続けています。

未来の被災地に生かしたい

阪神・淡路大震災と東日本大震災の被災地で、多くの住民の声を聞いてきました。その中には町への愛着とともに、今からではどうしようもない「無念さ」も含まれています。「ではどうすればいいのか?」という答えの一つが「事前復興」。被災する前から、自分たちの暮らしに何が必要なのかを考え、準備をしておく取り組みです。今の地域で暮らし続けたい人、働き続けたい人は、町の現状を知り、未来像を描かなければなりません。

住民の防災・復興への関心を高めておくために、被災地の声を生かしてほしいと情報発信も始めました。「災害に備えてほしい。そして被災して悲しむ人がいないように」という思いを込めて届けています。(詳細は本誌5ページ上段)

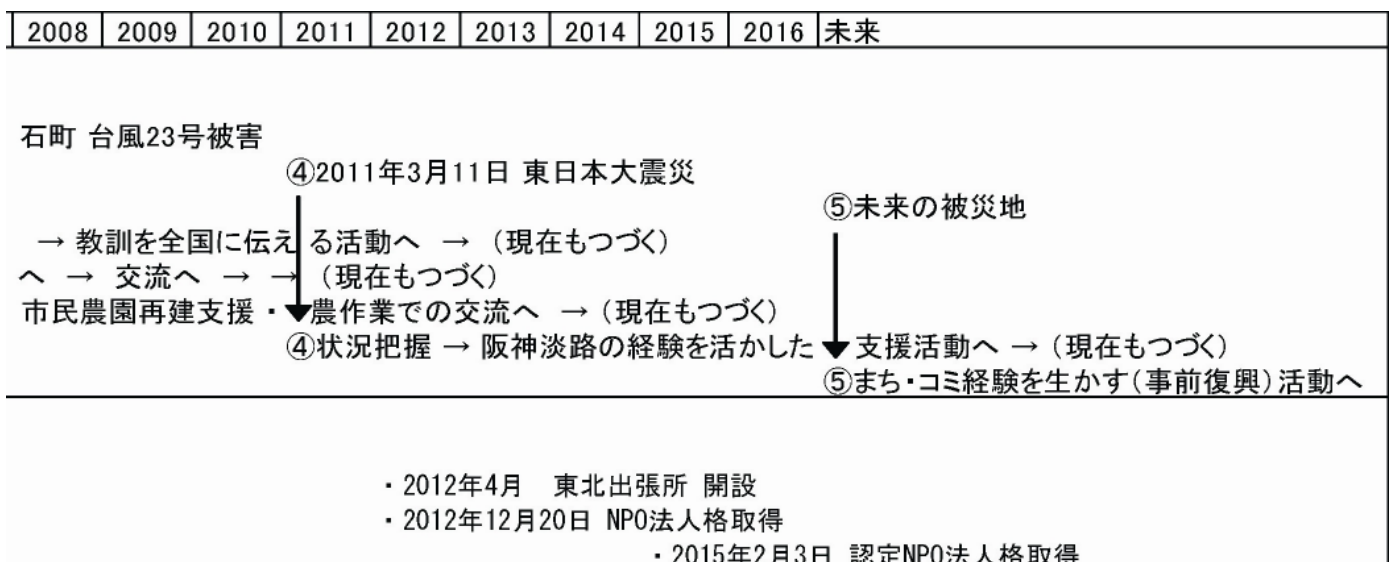
財産は人と人とのつながり

1999年に起こった「集集大地震」の被災地台湾や、2004年の「台風23号」で被害を受けた兵庫県豊岡市出石町鳥居地区との交流事業も、長年続けています。阪神・淡路大震災の被災地から各地へ出向き、住民と対話することで被災者を励まし、こちらも励まされる関係作りを続けています。ネットワークがどんどん広がり、人と人とのつながりが、まち・コミュニケーションの貴重な財産になっています。

これからもまち・コミュニケーションは、人という財産を大切に、住民の声を聞きながらまちづくり支援をする「伴走型まちづくり支援」に努めてまいります。今後ともよろしく願いいたします。



設立からずっとまち・コミの活動に全力投球の田中保三氏。その行動力が評価され、2014年には“神戸市民を驚かせた人”に与えられる「ロドニー賞」を受賞しました。講演や研修の講師としてまちづくりの経験を語り、人々を励まし続けています。



2015年度 活動報告

【会計報告】

2015年度 活動計算書(簡易版)
2015年01月01日～2015年12月31日(配賦)
特定非営利活動に係る事業の会計 (円)

【活動の総括】

2015年度も多くの方々に支えられ、活動できました。

組織基盤をさらに強化し、活動を継続できるよう、2014年度に認定NPO法人申請手続きを行い、2015年2月3日に認定されました。また、活動を伝え仲間を増やしていこうと、自主勉強会「御蔵学校」の開催回数を増やしました。

【事業報告】

・被災地復興支援事業

東日本大震災の被災地で、支援活動を行いました。

・地域まちづくり支援事業

主に神戸市長田区御蔵地区において、慰霊法要の開催支援と、地区再建状況調査を行いました。

・まちづくり研究調査事業

大学生や学識経験者を現地(神戸市、宮城県)で受け入れ、調査や視察のコーディネートおよび支援を行いました。

・震災体験学習事業

5校、1団体を受け入れました。

・研修受入事業

研修を14回実施しました。

・講師派遣事業

24カ所へ講師を派遣しました。

・まちづくり勉強会事業

御蔵学校を11回開催しました。

・地域間交流事業

のべ100名近くのボランティアが活動しました。

・情報発信事業

「季刊まち・コミ」「WEB」「facebook」等で発信しました。

科目	金額	
(1)経常収益		
受取会費		
正会員受取会費	120,000	
賛助会員受取会費	786,000	
購読会員受取会費	33,000	939,000
受取寄付金		1,064,541
受取助成金等		1,149,962
事業収益		3,796,279
その他収益		55,476
経常収益合計		7,005,258
(2)経常費用		
事業費		
人件費	3,875,645	
その他費用	3,345,495	7,221,140
管理費		
人件費	256,173	
その他費用	76,266	332,439
経常費用合計		7,553,579
当期経常増減額		-548,321
税引前当期正味財産増減額		-548,321
法人税、住民税及び事業税	72,000	
当期正味財産増減額		-620,321
前期繰越正味財産額		-1,415,637
次期繰越正味財産額	0	0
		-2,035,958

2015年度 貸借対照表

2015年12月31日現在
特定非営利活動に係る事業の会計 (円)

科目	金額	
資産の部		
流動資産		
小口現金	234	
普通預金	650,889	
未収金	919,690	1,570,813
固定資産		0
資産合計		1,570,813
負債の部		
流動負債		
未払金	3,364,795	
前受金	158,277	
預り金	83,699	3,606,771
固定負債		0
負債合計		3,606,771
正味財産の部		
正味財産期首残高		-1,415,637
当期正味財産増減額		-620,321
正味財産合計		-2,035,958
負債及び正味財産合計		1,570,813

会員・寄付者のみなさまへは、別紙にて事業報告の詳細をお知らせしております。

またウェブでも公開しています。 <http://machi-comi.wjg.jp/m-comi/report/2015houkoku.pdf>

ぜひご覧ください。



「被災地のつづやき」発信中！

被災地の声を届けることで「被災地での出来事は人ごとではない」と気づいてほしい、そして日本全国の、未来の災害に備える取り組みにつなげ『災害に負けないまちづくり』の支援をしたいと思っています。ぜひご覧ください。

タイトル「被災地のつづやき」

・ブログ <http://hisaichi.seesaa.net/>

・ツイッター https://twitter.com/hisaichi_m

・フェイスブック <https://www.facebook.com/hisaichitsubuyaki117311/>

毎日一話ずつ発信し続けていきます。

3月は5年目の311を前に、東日本大震災と阪神・淡路大震災の5年目の声を掲載しています。4月は、被災地で主体的に復興に取り組む方のつづやきを特集します。

「いいね！」や「リツイート」をよろしくお願いします。

基礎的な知識がなくてもわかる内容を心がけていますので、「被災地のつづやき」をぜひお知り合いにも広めてください。



神戸市長田区御蔵地区の慰霊碑の写真が「被災地のつづやき」の目印です。

大地のつづやき

毎年地元有志で行っている慰霊祭も二十一年を数えた。百二十八名の物故者、その御遺族に案内を出しているのだが、ここ数年数通が「尋ね当たりません」と返ってくる。年々風化が言われているが当地区も例外ではない。今年は去年が二十年の節目の後だから余計に危惧された。そこで思い切って「この笑顔忘れない」と銘打って写真展をやるうと踏み切った。百二十八名の犠牲者があり、朝と夕の五時四十六分に多勢の僧侶方による読経とそれに続く一人ひとりの俗名を朗々と読み上げてもらっている。それに加えて写真があればさらに故人の思い出を語り合い、深く厚く偲べる。それは第3回の法要を御蔵小学校でさせて頂いた時、講堂の壇上に登る階段に精霊流しの雪洞にお一人ひとり俗名を書いて飾ったところ御位牌や額入りの写真を添えて頂いた方がおられ、それが今も胸に焼き付いている。雪洞は近くの荻藻川に運び、掘割の川に下りてこられた僧侶の読経の中、一つひとつ流された。橋の上やら、回りに御遺族の方々、ご近所の方々の手を合わせておられたのが印象的だった。

多くを焼失した当地区で写真が集まるのか、またこの主旨を理解して頂けるのか、不安がつきまとうていたが、連絡の取れる御遺族六十人余に提供を呼びかけたところ、親族から譲ってもらったりして、二十一名の写真計十八枚が集まった。長田神社のお祭りでは法被姿の凛々しいながらも笑顔を湛えたものや運動会、旅行先でのものと話題を豊富させるものばかりで賑わった。この写真展に東日本女川で二十五才のご子息を亡くされた田村夫妻が早朝の慰霊祭から引き続いて加わり、写真を提供頂いた御遺族の方々も五年、二十一年の来し方をお互いに振り返り、語り合い、将来に向け共感し合って素晴らしく親密な交流が出来た。人が出て心許し合い、お互いに感化され、考え方が少しでも変わればそれは「御縁」に昇華されたとも言えるシーンを垣間見せてもらった。僧侶を始めご近所の皆さんの御好意あつての二十一年目だった。

株式会社兵庫商会 田中保三

まち・コミ活動報告 12/1～2/29

- 12/20【復興支援】東日本行き
- 12/1【研究調査】日本福祉大学雄勝調査同行
- 12/6【地域交流】出石市民農園
- 12/8【震災学習】静岡県立富士宮東高校
- 12/17【震災学習】震災学習情報交流会出席(地域人材支援センター)
- 12/20【研修受入】フィリピン等のアジア災害研究者視察受入(石巻)
- 1/13・18【事務局】監査
- 1/17【地域支援】慰霊法要
- 1/17【勉強会】第34回御蔵学校「被災地経済復興への視点～阪神大震災に学ぶ～」
- 遠藤勝裕氏(阪神・淡路大震災時日本銀行神戸支店長)・「新聞記者として震災と向き合って」磯辺康子氏(元神戸新聞社記者・専門編集委員)
- 1/20-2/23【復興支援】東日本行き
- 2/20【事務局】神戸市パートナーシップ活動助成報告会
- 2/21【事務局】総会・理事会
- 2/21【勉強会】第35回御蔵学校「東日本大震災5年 原発事故からの生活再建～何を失い、何をとり戻すのか～」市村高志氏(とみおか子ども未来ネットワーク代表)
- 2/22【研修受入】中央大学ボランティアセンター
- 2/29【事務局】住友ゴム工業株式会社CSR推進室視察
- 2/29【勉強会】第36回御蔵学校「宮城の復興まちづくり、住宅再建に思う」三部佳英氏((一財)宮城県建築住宅センター顧問)

ご支援、ありがとうございます。12/1～2/29 (新規・継続) 順不同・敬称略

- 【正会員】大矢根淳(東京都) 野崎隆一(兵庫県) 今田忠(兵庫県) 宮定章(兵庫県) 【賛助会員】平田賢一(神奈川県) 池田清(兵庫県) 増永理彦(大阪府) 田嶋民子(兵庫県) 室崎益輝(京都府) 佐藤正子(宮城県) 佐藤道正(宮城県) 糟谷佐紀(兵庫県) 川島大輔(愛知県) 有限会社ミナト興産(兵庫県) 高森香都子(兵庫県) 高井秀樹(兵庫県) 高谷克人(東京都) 濱岡歳生(山口県) 兵庫県震災復興研究センター(兵庫県) 大久保周伸(兵庫県) 藤村晴彦(兵庫県) 服部光晴(奈良県) 佐藤友一(京都府) 桜間裕章(兵庫県) 住田功一(大阪府) 中尾嘉孝(兵庫県) 堀井秀知(徳島県) 青田良介(兵庫県) 金原雅彦(埼玉県) 村岡峰男(兵庫県) 佐藤美姿(埼玉県) 大久保清孝(兵庫県) 宮下克己(兵庫県) 上田伴子(兵庫県) 齊田哲平(東京都) 萩原正五郎(兵庫県) 高井徹(埼玉県) 中田敬司(兵庫県) 大久保裕晴(兵庫県) 【寄付】吉村英祐(大阪府) 室崎益輝(京都府) 大久保清孝(兵庫県) 洪田ちしゅう(東京都) 尾崎裕子(愛知県) 今井照(福島県) 富田真理子(兵庫県) 堀井秀知(徳島県) 綱哲男(兵庫県) 長田攻一(千葉県) 宮定章(兵庫県) 【購読会員】大久保正之(兵庫県) 水野良将(宮城県) 大島英司(東京都) 岩崎信彦(京都府) 中澤秀雄(東京都) 中村大蔵(兵庫県)
- 【協力】社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県神戸市) 味六亭(宮城県石巻市)

会員募集中! 当団体へ賛助会員年会費とご寄付をくださった方は、寄付金控除等税の優遇措置を受けることができます。(正会員と購読会員は含まれません) 認定NPO法人への寄付者に対する優遇措置です。

さらに活発な活動を行うため、会員を募集し、資金面でのご支援をいただいています。
 また、会員は1年更新とさせていただきます。現在会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は「季刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名ラベルに記載していますので、ご確認ください。)

会員種別

- 賛助会員**
当法人の事業を、会員として賛助してくださる方
年会費：5,000円(学生3,000円) 総会議決権：なし
- 正会員**
当法人の目的に賛同し、ご入会くださる方
年会費：10,000円 総会議決権：あり
- 入会申込書のご提出をお願いしております。
- 購読会員**
当法人発行の「季刊まち・コミ」購読希望の方
年会費：3,000円 総会議決権：なし

編集後記 4月1日で20周年を迎えます。気持ちを引き締めて活動してまいりますので、応援よろしく申し上げます。(戸)

お振り込み先

名称 特定非営利活動法人まち・コミュニケーション
 【郵便振替】
 口座番号 00950-3-42788
 【三井住友銀行・長田支店】
 普通口座 7669623
 ご寄付もよろしくお願いたします

2016年3月1日発行 no.14

編集 / 発行
 認定特定非営利活動法人
 まち・コミュニケーション



事務所 〒653-0014
 兵庫県神戸市長田区御蔵通5-211-4-101(みくら5)
 TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961

東北出張所 〒986-0859
 宮城県石巻市大街道西1-14-101 味六亭 相澤様方

e-mail m-comi@bj.wakwak.com
 URL http://park15.wakwak.com/~m-comi/
 ホームページからバックナンバーをご覧いただけます